



TITLE:

職工組合論(三、完)

AUTHOR(S):

河田, 嗣郎

CITATION:

河田, 嗣郎. 職工組合論(三、完). 經濟論叢 1918, 6(6): 813-833

ISSUE DATE:

1918-06-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127389>

RIGHT:

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷六第

行發日一月六年七正大

論說

生命保險業者ノ保健運動

法學博士 財部 靜治

植民地統治ノ形式ニ就キテ

山本美越乃

分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヲ請フ

文學士 高田 保馬

所得稅ニ於テ所得ノ統一課稅ニ就

法學博士 神戶 正雄

職工組合論

法學士 河田 嗣郎

露國ノ新まりるくす主義

米田庄太郎

諾威ノ海運

法學士 小島昌太郎

時事問題

米價ノ調節

法學博士 戸田 海市

雜錄

元祿年間貨幣改鑄ノ由來

藤田 元春

戰費トハ何ゾヤ

法學士 小島昌太郎

赤穂ノ鹽田

津島士 本庄榮治郎

職工組合論 (三、完)

河田 嗣 郎

三 職工組合ノ任務

職工組合ノ任務トスル所ハ汎ク労働者ノ生活狀態ヲ改善シ、其ノ經濟的並ビニ社會的地位ヲ上進セシメムトスルニ存スル。サレバ其ハ先ヅ卑近ナル所ニ於テハ、労働者一般ノ日々ノ労働狀態ヲ改善シ労働條件ヲ労働者ニ有利ナラシメ、労働時間ヲ或程度マデ短縮シ勞賃標準ヲ高メ、工場其他労働場所ノ設備ヲ完全ニシ労働ノ安全ト健康ノ維持トヲ圖ルニ遺憾ナカラシムルコトヨリ、進ミテハ終ニ労働者階級ヲシテ資本ノ束縛ヨリ離脱スルヲ得セシメ、資本主義ト勞賃制度トノ全廢ヲ期スルト云フ點ニ迄及ブ次第デアル。

斯ルガ故ニ職工組合ノ任務遂行ニ關シテハ闘爭主義ト平和主義トノ二様ノ見解ノ行ハルヲ見ル。闘爭主義ハ即チ之レまるくす流ノ階級戰爭ノ理論ヲ奉ジ、労働者階級ヲ開放セムガ爲メニハ資本主階級ニ對シテ戰ヲ挑ミ、其ノ闘爭ニ打勝ツヨリ外ニ道ナシト爲シ、飽迄階級對峙ノ見解ヲ持シ、又之ニ適當ナル手段ヲ講セントスルモノデアル。サレバ此主義ニ據ルモノハ職工組合ノ中

ニ在リテモ所謂新組合主義ニ近キモノニテ、一般ニ社會主義的ナルモノ、乃至ハさんぢかり
 ずむニ屬スルモノトセラルルノデアル。之ニ反シテ平和主義ハ平和ノ手段ニ依リ合法的ニ着一步
 勞働狀態ノ改善ヲ圖リ、由テ以テ直接ニ社會平和ヲ齎シ又之ヲ促進セムトスルモノデアルカラ、
 之ニ屬スルモノハ勞働組合ノ中ニ在リテモ、基督教のナルモノ其他反社會主義的ナル勞働者等デ
 アル。

斯ク二様ノ見解ノ岐ルル所ヨリシテ勞働組合ノ任務遂行ニ關シテモ、平和主義ノモノガ主ト
 シテ卑近ナル所ニ着眼シ勞働時間ノ短縮ヤ勞賃標準ノ制定ヤ工場設備ノ改善ヤニ力ヲ注グニ反シ
 テ、闘爭主義ノモノハ斯カル卑近ノ事業ハ兎ニ角トシテ、之ヲ行フモ行ハザルモ結局勞働者階級
 全般ノ解放ヲ實現スルニアラザレバ意義ヲ成サザル次第デアルカラ、成可ク徹底のニ此ノ大目的
 ニ向ツテ邁進セムトスルノデアル。而シテ現今一般ノ傾向ハ固ヨリ國ニ由リテ相同ジカラザレド
 モ、從來平和主義ヲ固執シタルモノモ、今ヤ何トナク闘爭主義ニ感染シ、勞働階級ノ完全ナル解
 放ニ對スル希望ト運動トガ漸次其ノ色彩ヲ強メ其ノ武歩ヲ進メツツアルノ感ガアル。資本ニ對ス
 ル勞働ノ終局的勝利ト云フコトハ此ノ氣運ニ對シテ常ニ希望ノ的トナツテ居ル次第デアル。

クレドモ斯ノ如キ所謂社會主義的氣運ナルモノハ在來ノ職工組合トシテハ稍々其ノ面目ニアラ
 ザル所ナレバ、此種ノ新氣運ニ據テ立ツモノハ之ヲ新組合主義トシテ在來ノ職工組合ト區別シテ

取扱フガ寧ロ穩當デアル。此事特ニ英吉利ノ職工組合ニ於テ然ルヲ見ル。而シテ在來ノ職工組合トシテハ其ノ目的トシ任務トスル所ハ、主トシテ產業界ノ平和ヲ將來セントスルニ存スルト見テ大過ナキ次第デアツテ、資本主階級ト労働者階級トノ血腥キ鬭爭ニ依リテ、一方ガ他方ニ打勝ち、以テ問題ノ解決ヲ見出サンヨリモ、兩階級間ノ相反礙ストセラルル利害ヲ調和シ、兩者間ニ協同的ナル利害一致ヲ見出サントスルノデアル。

今暫ク職工組合ト云フ問題ヲ離レテ一般的ニ資本主ト労働者トノ兩階級間ニ共同ナル利害ノ一致ヲ見出スノ方法ニ就キテ致フレバ、其方法ハ一ニハ労働者ヲシテ生産結果ニ對シ今少シク大イナル割ケ前ニ預ルヲ得セシムルコト之デアツテ、彼ノ利益分配制ノ設定ノ如キハ其ノ一方法ナリトセラルル。二ニハ又労働者ヲシテ今少シク生産事業ノ管理ニ關シ發言權ヲ獲セシムルコト之デアツテ、ツマリ労働者ヲシテ理事者ノ仲間ニ加入スルヲ得セシムルニ在リトセラルル。然ルニ此種ノ共同作業ナルモノハ從來ハ兎角職工組合トハ緣故薄ク否寧ロ相容レズ、共同作業ハ却ツテ職工組合ヨリ労働者ヲ引拔クノ係蹄ニ用ヒラレタルノ感ナキニアラズ、從テ普通ニハ此種ノ共同作業ノ方法ハ労働者ヲシテ個人主義的ナラシメ、小資本主トシテ自己ノ地位ト利益トヲ守ルニ之レ專念シ、労働者一般ノ共益増進ヲ顧ミザルニ至ラシムルモノト考ヘラレテ居ル。即チ此ノ共同作業制ハ職工組合ノ根本原則タル労働者一般ノ利害ノ共通ト從テ之ニ對スル共通ノ制規ト云フコ

トニ反スルモノトセラレ、利益分配制ト職工組合トハ互ニ相容レザル立場ニ立チ、前者ハ或特定ノ事業ニ於ケル特定ノ雇主ト特定ノ労働者トノ間ノ利害共同ヲ計ルモノナルニ、後者ハ或ル職業ニ於ケル總テノ労働者ノ利益ト總テノ雇主ノ利益トノ間ニ共通一致ヲ見出サントスルモノナリト考ヘラレテ居ル。

サレバ職工組合ニ屬スル者及ビ之ニ由ル労働利益ノ増進ヲ希望スル者ハ、多ク此ノ共同作業制ニハ望ヲ囑セズ、他ノ方法ヲ選バントスル次第デアルガ、職工組合ヲ好マザル或者ニ至ツテハ如何ナル代價ヲ拂フモ重モ角モ産業界ノ平和ヲ齎スコトニノミ熱中シ、其ノ方法トシテハ同盟罷工ノ嚴禁及ビ強制的仲裁制度ヲ採用ス可シト爲スノデアル。然ルニ或者ニ至リテハ左迄極端ナラズヤハリ主トシテ職工組合ニ依頼シ、和解制度又ハ任意的仲裁制度ニ由リテ産業平和ヲ見ント欲スルノデアル。
コムバルソリ、アービトレーション
ゴシワイション
ケルランタリ、アービトレーション

然ルニ又更ニ或者ニ至リテハ、職工組合ヲバ國家機關ノ一タラシメムトスル者ガアル。尤モ之ハ確固タル定見ニ出デタルハ少クテ事情ノ推移ニ由テ議論ヲ立テタルニ過ギス。而シテ其事ガ初メテ事實トシテ表ハレタルハ佛蘭西デアツテ十八世紀ノ初頭ニ都市ノ保護ノ下ニ労働組合 *Bourse du Travail* ノ組織サレタルヲ嚆矢トスル。英國ニテハ一九〇五年ノ失業労働者法ニヨリテ公ノ労働紹介所ノ設ケラルルニ至リテヨリハ、職工組合ニ對シテ其ノ存在ヲ國家ガ公ニ承認スルコトト

ナツタ。其後ニ至ツテ國家保險法ハ更ニ一步ヲ進メテ失業基金ノ管理ニ關シ職工組合ニ對シテ大イナル權利ト義務トヲ與フルコトナツタ。

右ハ一般ニ勞働狀態ノ改善ニ關スル職工組合ノ立場ニ就イテノ議論デアルガ、扨テ翻テ、此ノ問題ニ關スル職工組合ノ任務ニ就キ今少シク具體的ニ之ヲ攷フルニ、彼ノ社會主義的ナル組合ニ至ツテハ徹底的ナル急進策ヲ採ルモノ多ク、卑近ナル勞働條件ノ改善ニ齟齬タルヨリモ大イナル階級鬭爭ニヨリテ資本主義ヲ打亡ボサント欲スルモノナルコト既述ノ通りデアルカラ、其ノ任務トスル所ニ就キテハ茲ニ之ヲ述ブルヲ適當トシナイ。仍テ茲ニハ唯ダ彼ノ漸進的ニ平和手段ニ依リテ勞働條件ノ改善ノ道ヲ進ミ行カントスルモノノ任務トスル所ニ就キテ見ルニ止ムル。之ニ關シテハ勞賃制ノ改善ト勞働時間ノ短縮トガ就中最モ重要ナル任務トセラレテアル。其他固ヨリ多クノ事項ノ擧グ可キモノガアルケレドモ、其等ハ暫ク措キ此ノ最モ重要ナル二事項ニ就キ其ノ一般ヲ考ヘテ見ルデアラウ。

先ツ勞賃制ニ關シテハ職工組合ハ同一職業内ノ各勞働者ニ一樣ニ適用セラル可キスタンダード・レート勞賃標準ヲ制定スルヲ以テ第一任務ト爲シテ居ル。

(一) 標準勞賃ノ制定 勞働契約ノ條件ニ關シテ公權力又ハ組合ナドノ力ガ之ヲ制限スルコトハ既ニ十八世紀ヨリシテ行ハレテ居ル所デアルケレドモ、之ニ關シテハ學理上其ノ不都合ナルヲ責ム

ル者ノ少ナカラザリシヲ忘レテハナラヌ。卽チ彼ノ古典派經濟學者ノ見解ノ如キハ時ノ大企業ノ利益ヲ主眼トシテ其說ノ立テラレタルモノノ多カツタ結果トシテ、勞賃契約ヲ公權力ニ依リテ制限スルコトニ關シテハ大イナル反對ヲ唱ヘタ。此ノ見解ニ從ヘバ勞働モ亦普通貨物同様ニ市場ニ賣買セラルルモノデ、勞働者ハ其ノ賣手トシテ企業家ハ其ノ買手トシテ相對立シ、勞働ノ價格タル勞賃ハ其間ニ於ケル需給ノ關係ニ由リテ定マルモノデアル。而シテ公權力ハ斯クテ定マル普通貨物ノ價格ニ對シテ一指ヲモ染メ能ハザルガ如ク勞賃ニ對シテモ之ヲ如何トモシ能ハザルモノデアル。元來價格ナルモノハ與ヘラレタル需給ノ關係ニ由リ自然法則的ニ定マル所デアルカラ、勞働ノ需要多キニ其ノ供給少キ場合ニハ勞賃高クシテ勞働者ニ都合好カル可キモ、反對ノ場合ニハ勞賃低クシテ都合惡カル可ク、然カモ之ハ洵ニ詮方ナキ所デアツテ、人爲的ニ如何トモスルヲ得可キモノデナイトセラルル次第デアル。

然シ此ノ見解ノ當ヲ得ザルモノナルコトハ今ヤ多ク論ズル迄モナク好ク知ラレタル所デアル。勞賃ハ勞働ノ賣買價格トシテ市場ニ於ケル需給關係ニ由リテ定マルコト尙ホ普通ノ貨物ノ如ク、兩者間ニハ區別ノ認ム可キナシト言ハルルケレドモ、元來勞働ナルモノハ之ヲ爲ス人自身ト分離スルコトノ出來ヌモノデアツテ、勞働ヲ使フ人ハ卽チ勞働者自身ニ對シテ當然ニ支配權ヲ得、勞働者ハ勞働ニ服セムガ爲メニハ必ズ雇主ノ指定スル場所ニ在ラネバナラヌ。又勞働時間中ハ其ノ

一身ヲ献ゲテ勞務ニ當ラナケレバナラヌ。從テ勞働ヲ使役スル企業家が勞働者ニ對シテ爲ス所ノ如何ハ、實ニ其ノ勞働者ノ精神及ビ身體ニ多大ナル影響ヲ及ボスモノデアル。其ノ德性、其ノ健康、其ノ家庭生活、其ノ市民トシテノ生存ハ總テ勞働契約ノ如何、雇主ノ待遇如何ニ由リテ絶大ナル影響ヲ被ルモノデアル。若シ勞働ナルモノガ之ヲ行フ勞働者ノ身體ト離シテ取扱フコトノ出來ルモノナラバ、其ノ價格ノ決定ニ關シテモ之ヲ普通貨物同様ニ取扱ツテ差支ナイケレドモ、右ノ如ク勞働條件如何ガ勞働者ノ人トシテノ生存ニ絶大ノ影響ヲ及ボスモノナリトスレバ、其ノ契約ノ内容ニ關シ特ニ勞賃ノ高及ビ支拂方法等ニ關シテ公權力ノ干涉スルヲ否定ス可キ理由ハナイ。勞働者が組合ノ力ニヨリテ勞賃制理ノ爲メニ或ル標準ノ定メラレムコトヲ要求スル場合ニハ、其ハ必ズヤ公ノ承認ヲ得可キ筈デアル。之ヲ人道問題トシテモ成行ノ儘ニ放任ス可キモノデハナイノデアル。

然ルニ古キ見解ハ又惟ラク、勞働契約ハ唯之レ一ノ商的契約ニシテ元來純經濟上ノ問題デアル。倫理問題トハ別個ノモノデアルカラ、人道上ノ見地カラシテ此ノ商的取引ニ制限ヲ加フ可キモノデナイ。今之ヲ制限スルコトニナレバ、總テソハ人ノ所得ヲ制限シ又個人的自由ヲ束縛スルモノトシテ却ツテ非難サル可キデアルト。此事ハ普通ノ貨物ノ賣買取引ニ關シテハ成程ソノ通デアルカモ知レヌガ、勞働ハ右述ノ如ク之ヲ行フ者ト分離ス可カラザル點ニ於テ普通貨物ト大イニ其ノ

性質ヲ異ニスル。價格ノ低廉ナル場合ニ於テ普通貨物ヲ賣ル者ハ其ノ供給ヲ縮少シテ價格ガ生産費以下ニ下落スルヲ防グコトガ出來ルケレドモ、勞働ニ在リテハ勞賃低廉ナレバトテ供給ヲ減ズル譯ニハ行カヌノデアル。元來勞働者ハ無産者^{プロレタリア}トシテ勞働以外ニハ以テ生ヲ養フ可キ手段ヲ有セザルモノタリ、勞働ニ就クカ就カヌカ、働キテ生クルカ働カズシテ死スルカト云フニツニ一ツノ選擇シカ持タヌモノデアルカラ、勞働供給ヲ縮少スル術ヲ有セザルモノデアル。而シテ又其ノ所謂生産費ナルモノモ勞働ニ就キテハ之ヲ言フコトノ太ダ穩當ナラザルモノアリ、強イテ之ヲ言ヘバ勞働者自身ノ生産費タリ、彼ガ生レテ此方成長ニ要シタルモノ、教育習練ニ要シタルモノ、妻子眷族ヲ養フニ要スルモノ、疾病老衰ニ備フ可キモノ、死後妻子ノ生存ヲ維持セシムルニ要スルモノ、總テ此等ガ生産費ナリト謂ハバ謂ヒ得可キニ過ギヌ。サレバ若シ勞賃ガ此等ノ費用ヲ償フニ足ラザルニ於テハ即チ其ノ勞賃ハ生産費ヲ償フニ足ラザルコトナリ、爲メニ勞働者ハ生活ヲ不安ニセラレ生存ヲ脅サレ甚シキ悲境ニ陷ラザルヲ得ナイ。然ルニ今之ニ普通貨物ニ關スル理論ヲ當倣メテ、之レ純然タル經濟問題ナレバ倫理上ノ要求ヲ加味シテハナラヌト言フハ、ドウ見テモ不穩當²⁵⁾デアル。

尙又人々ノ得ル勞賃ニ制限ヲ加ヘ之ヲ一定スルガ如キハ即チ之レ劣惡アル共產主義ノ實行ナリトシテ、勞賃制理ニ反對ヲ試ムル者モナル。然レドモ職工組合ノ主張スル所ハ勞賃ノ均一制ヲ布

25) L. Brentano, Ueber Syndikalismus und Lohnminimum, Zwei Vorträge, München 1913. S. 31-34.

カント云フノデハナクテ、唯ダ或標準律ヲ定メテ一種ノ勞賃格付ヲ爲シ格付表ヲ造ルニ過ギヌモノデアルカラ、決シテ之レ各勞働者ノ受クル實際勞賃ヲ均一ニスルモノデハナイ。其ノ格付表ニ由リテ各勞働者ハ自己ノ能力ニ應ジテ各別ノ勞賃額ヲ所得シ得可キモノデアル。此事出來高拂ノ勞働ニ付キテ然ルガ如ク時間拂ノ勞働ニ就キテモ然ウデアル。

右述ブル如クナルヲ以テ、勞働契約ニ對シテ公權力ガ干涉ヲ試ムルヲ不可トナシ又職工組合ノ如キガ之ニ容喙シテ勞働者各個人ノ自由ヲ制限スルハ否ナリトスル見解ハ、到底終ニ之ヲ維持スルヲ得可カラズ、學說トシテハ尙ホ多少絕對自由主義ガ命脈ヲ維持スル所ニ在リテモ、實際政策ハ一ニハ又靚面ノ必要ヨリシテ漸次ニ勞働契約ニ對スル干涉ヲ行フコトトナツタノデアル。

更ニ又之ヲ歷史的ニ攷フレバ、自由主義ノ見解ハ勞賃ハ勞働ノ需要供給ノ關係ニ由リテ自然法則的ニ定ルモノナレバ之ニ人爲的制限ヲ加フルハ不可ナリト爲スノデアルケレドモ、然シ勞賃契約ガ現時ノ如ク個々人別々ニ自由ニ爲サルルニ至ツタノハ割合ニ新シキ現象デアル。中世ニ於テ手工業組合制^{ギルド}ノ盛ニ行ハレタ時代ニ在リテハ親方ト助手及ビ徒弟トノ間ノ契約ハ所謂集合契約デアッタ。同一地ニ於テ同一種類ノ職業ニ従事スル者ハ例外ナク一樣ニ其ノ集合契約ニ從フ可キノトセラレタ。此ノ制度ハ其後全ク自由主義ニ依リテ打破セラレタケレドモ、今ヤ又集合契約制ガ復活セントスルニ至ツタノデアル。即チ勞働契約ハ個々ノ雇主及ビ勞働者別々ニ之ヲ爲サズ雇

主ト労働者トノ双方ノ代表者ニ依リテ之ヲ締結シ、同一職業ニ屬スル總テノ企業者及ビ労働者ニ對シテ同一ナル労働條件ヲ與フルモノ之デアル。十九世紀ノ中葉以來先ヅ英國ニ於テ行ハレ、次デ獨逸其他ニモ行ハルルニ至ツタノデアル。²⁶⁾

凡ベテ集合契約ニ依ル勞賃制ノ實行ニハ和解及ビ仲裁制度ノ組織セラルルヲ必要トスルモノデアルガ、此等ハ其行フ所ニ關シ十分ナル法律上ノ効力ノ認めラレ法の拘束力ノ之ニ伴フニアラザレバ到底能ク効果ヲ上ゲ得ルモノデナイ。從テ當初ハ此事ガ諸國ニ於テ問題トナツタノデアルガ、今ヤ多數ノ國ニ在リテハ之ニ對スル法律上ノ効果ノ認めラルルコトナリ、其ノ所決ハ問題ニ關係アル企業家及ビ労働者ヲ共ニ拘束スルモノトナツタ。此ニ關シテハ濠太利ハ最モ適好ナル例ヲ示スモノトシテ其ノ制度ハ研究ニ値スルモノデアル。即チ彼國ニ在リテハ初メ家内労働者ノ爲メニ勞賃決定機關ノ設ケラレ其レニ依リテ集合契約ノ行ハルルコトトセラレタガ、其ノ所決ニ對シ法的ニ十分ナル拘束力ヲ與ヘ仲裁裁判ノ判決タルダケノ力ヲ與ヘテ一般ニ労働爭議ニ關シ之ガ仲裁ヲ爲シ決定ヲ與ヘテ、以テ工場閉鎖ヤ同盟罷工ヤノ行ハルルコト無カラシメン爲メニ種々講究セラレタル結果、終ニ多クノ地方ニ於テ此種ノ有効ナル勞賃決定及ビ爭議仲裁機關ノ設立ヲ見ルニ至ツタノデアル。²⁷⁾

英吉利ニ在リテモ問題ハ當初家内工業労働者保護ノ必要ヨリシテ起リ來ツタ。即チ一八四九年

26) 1860年英國 Nottingham ノ Wolverhampton ニ行ハルルニ至リシモノハ其適例デアル。

27) 濠太利ニ於ケル和解及ビ仲裁制度ニ關シテハ本誌第五卷第三、四、五號所載拙稿『同盟罷工ト和解及ビ仲裁制度』參照

ニ於テも一にんぐ、くろにくる紙ガ家内工業労働者ノ生活及ビ労働状態ニ就キテ調査ヲ試ミ其ノ慘狀ヲ公ニシテヨリハ、其ノ保護ノ必要ハ一般ニ認メラルルニ至リ、終ニ一八九六年ノ保護規定ヲ經テ一九一〇年ノ立法ヲ見ルコトナリ、更ニ一九〇九年ニ至ツテハ仕立職工其他四種ノ家内工業ニ對シテ最低勞賃制ノ設ケラルルコトナリ、濠洲ガみくどりあノ制ニ倣ツテ勞働局ノ設立ヲモ見ルニ至ツタ。斯クテ最低勞賃制ハ愈々實行ノ域ニ入ルコトナツタガ、一九一二年ニ至リテハ石炭坑及ビ鐵鑛山ニ從事スル労働者ニ對シテモ最低勞賃ノ設ケラルルコトナリ、茲ニ此ノ制度ハ獨リ家内工業者ニ於ケルノミナラズ、一般ニ工場工業及ビ鑛山業ニ對シテ實施サルルノ端緒ヲ開イタ次第デアル。一九一二年ノ此ノ制定ハ三年ノ期間附ノモノトセラレタケレドモろいど、ぢよーじ氏ノ如キハ之レ即チ一般的ニ最低勞賃制ニ入ル可キ門戸ノ開カレタルモノナレバ、此ノ門戸ハ永久ニ再ビ閉鎖サルルコトナカル可シトノ意見ヲ公表シ、更ニ此ノ制度ヲ農業ニモ及ボシ、以テ農民ガ田舎ヲ捨テテ都會ニ流入スルヲ防ギ、農業維持ノ一方策ト爲サントスルノ希望ヲ明カニシタ。²⁸⁾ 氏ノ此ノ希望ハ其後漸次ニ實現サレ、今回ノ大戰ニ由リ荒廢セル英國ノ農業状態恢復ノ必要愈々急迫セルニ至リテヨリハ、終ニ農業労働者ニ對スル最低勞賃制ノ制定ヲ見ルコトトナツタノデアル。

其他白、佛、埃ノ諸國ニ於テモ濠洲及ビ英國ノ例ニ倣ツテ、最低勞賃制ヲ布カントスルノ計畫

が起リ來リツツアツタ。

右ハ諸國ニ於ケル實際ノ氣運ニ就キテノコトデアルガ、擬テ又、勞賃制理ノ方法トシテ集合契約ノ行ハルルニ際シテハ其ノ勞賃標準トシテハ大抵ノ場合ニ於テ所謂最低勞賃^{ミニマムウエージ}ノ設ケラルルヲ例トスルニ、此ノ最低勞賃ヲ定ムルニ就キテ最モ困難ナル事情ハ其ノ最低ト云フ標準ヲ何レニ求ム可キカト云フコト之デアル。濠太利ニテハ當初ハ「誠實ナル雇主ガ平均的ニ支拂フヲ例トスル勞賃」ヲ以テ其ノ標準ト爲ストセラレタガ、之ハ頗ル曖昧ナル標準タルニ加ヘテ、其額ヲ以テシテハ實際ニ勞働者ノ生活ノ出來難イ事情モアツタノデ、次ニハ、「勞働者ガ適宜ナル生活ヲ爲シ能フ限度ノ勞賃」ヲ以テ最低勞賃ト爲ストセラレタガ、之亦勞働者各自及ビ其ノ家庭上ノ事情ノ種々異レルガ爲メニ幾多ノ困難ノ這間ニ生ジ來ルヲ免レナカツタ。而シテ一般的ニ最モ困ル事情ハト云ヘバ最低勞賃トシテ之ヲ定ムルトモ、實際ニ於テハソガ最高勞賃トナルヲ免レ難キコト之デアル。之ニ對シテハ裁判所ハ能フ限リニ於テ干涉ヲ試ム可キデアルケレドモ、事實上干涉ノ不可能ナル場合ガ多イノデアル。殊ニ家内勞働者ノ如キハ職ヲ失フノ恐ヨリシテ定メラレタル最低勞賃以下ノ勞賃ヲ以テ甘シジテ勞働ニ服スル者多ク、之ヲ取締ルコトハ洵ニ困難デアル。サレバ最低勞賃制ヲシテ有効ニ其ノ實行ヲ期スルヲ得セシメンガ爲メニハ、必ズヤ職工組合ノアルアリテ、勞働者自ラガ之ヲ衛ルニ努メナケレバナラヌ。健實有功ナル職工組合ノ無キ限リハ所詮満足ナル結果

ヲ見ルコトハ望ミ難イ。

何レニシテモ定メラル可キ最低勞賃ナルモノハ同一職業ニ從事スル勞働者ニハ、一般ニ適用サル可キ共通ノ標準タル可キモノデ其點ニハ疑ノナキ所デアルガソハ必ズシモ全國一律デナツテハナラヌト云フノデハナイ。諸地方ニ於ケル實際上ノ事情ノ異ルニ因リテ地方的ニ多少ツツノ相異ノ認メラル可キハ勿論デアル。而シテソハ決シテ所謂最低生活費ト一致セナケレバナラヌト云フノデハナク、右ニモ一言セシガ如ク最低勞賃ノ標準ヲ最低又ハ適宜ナル生活費ニ求ムルコトハ實際上困難ナル所デアル。²⁸⁾サレバ其ノ標準勞賃ナルモノハ(一)雇傭者ノ支拂能力ト支拂意思トニ由リ、(二)勞働需要ガ獨占サレタルト多數者ノ間ニ競争的ニ表ハルルト、(三)勞働者ガ勞働ヲ賣ル必要ノ急切ナルト否ト、(四)勞働者ノ心情如何即チ例ヘバ勞賃ハ安クトモ暢氣ニ仕事ヲ爲サント欲スルカ將又只管勞賃ノ高キヲ望ムカ等ノ諸事情ニ由リテ相異シ來ラザルヲ得ヌ。必竟ハ之レ一般のニ勞賃ノ決定サルルト其理ニ於テ異ル所ハナイノデアル。

併シ乍ラ勞賃標準ガ地方々々ニ依リテ相違スルハ不便ナレバ之ヲ國家的ニ又ハ少クトモ比較的廣キ地域ニ涉リテ地方的ニ統一セントスルノ希望ハナイデハナイ。或者ハ又先ヅ國家的標準ヲ定メ置キテ地方々々ノ特殊ノ事情ハ此ノ國家的標準ニ對シ割増制ヲ設クルコトニ由リテ之ヲ平均ス可シトノ考ヲ懷イテ居ル。然レドモ此ノ統一ト云フ事ハ標準以下ノ勞賃ヲ有スル地方ニハ都合好

28) Hammond, Regulation of Wages in New Zealand, (Quarterly Journal of Economics Vol. XXXI. No. 3, May 1917)

ケレドモ、標準以上ノ地方ニハ都合悪シケレバ、實行ハ中々容易ナ事業デハナイノデアル。

最後ニ標準勞賃ニ就キテスライシシ、スケール自働率制ノ採用セラレ大イニ人氣好カリシ時代モアツタガ、近時ニ至

リテハ此ノ制度ハ不合理ノモノトシテ排斥セラルルニ至ツタ。うゑつぶ氏夫妻ノ言ノ如ク此ノ制

度ハ勞働者ヲシテ企業ニ關スル劣アムブル、バートンレル仲間タラシムルモノデアル。彼等ハ企業上ノ仲間トシテ製

品ノ賣價ノ高下ニ由リ從ツテ即チ企業上ノ利益ノ多少ニ由リテ其ノ割前ニ與レドモ、然カモ事業

ノ管理經營ニ關シテハ一言モ隊ヲ容ルルヲ得ズ唯ダ利益ノ裕分ニ與ルニ過ギヌノデアル。サレバ

此ノ自働率制ハヤハリ之レ一種ノ共同作業制デアツテ、ソガ勞働者ノ爲メニ必ズシモ餘リ有利ノ

モノニアラザルハ、先ニ之ヲ述ベタ通りデアル。

扱テ以上論ズル所ハ勞賃ニ關スル問題デアツテ、之ガ制理ノ爲メニ標準勞賃ヲ制定スルニ就キ
テノ議論ト實際トデアル。而シテ之ガ實行ニ關シテ職工組合ノ働ケル部分ノ大ナルコトハ今更言
ヲ俟タザル所ニシテ、職工組合ノ十分發達セルモノアルニ由リテ初メテ、此種ノ問題ハ實行ノ緒
ニ就キ得ルモノデアル。職工組合ノ十分發達セザル所ニ在リテハ彼ノ和解及ビ仲裁制度ノ如キガ
已ニ有効ナルヲ得可カラザルガ如ク、最低勞賃制ノ如キモ之ト關聯シテ又實施シ難ク有効ナルヲ
得難キモノデアル。

仍テ進ムデ勞働契約ノ制理ニ關シ職工組合ノ任務トスル第二ノ重大問題タル勞働時間ノ制限ニ

就キテ少シク攷究スルデアラウ。

(二) 勞働時間ノ制限 惟フニ勞働時間ノ制限ニ關スル要求ハ肉體の勞働者ニ特有ナルモノト見テ過リナイデアラウ。彼ノ自由職業ノ類ヤ精神の勞働ニ服スル者ノ間ニハ此種ノ要求ハ之ヲ見ザル所デアル。然レドモ肉體の勞働者ノ間ニ於ケル此ノ要求モ其ノ廣ク行ハルルニ至リシハ餘リ古キコトデハナイ。歐洲諸國ニ在リテモ十八世紀ノ末ニ至ル頃マデハ勞働者ノ間ニ勞働條件ニ關スル要求ノ表ハレ來ルアリトモ、其ハ大抵勞賃ニ關スル要求デアツタ。而シテ我國ノ如キ經濟發達ノ後レタル國ニ在リテハ現今ニ至ルモ尙ホ勞働者ノ要求ハ主トシテ專ラ勞賃引上ニ向ケラレ勞働時間ノ短縮ニ關スルモノハ甚ダ稀有ナルニ過ギヌデアル。

然ルニ歐洲諸國ニ在リテハ十九世紀ノ初頭以來勞働時間ノ制限ヲバ或ハ集合契約ノ勸ニ依リテ、或ハ法律ノ制定ニ依リテ得ントスルノ要求諸種ノ職業間ニ表ハレ來リ、漸次其ノ要求ハ熾ナルニ至ツタノデアル。斯クテ現今ニテハ既述ノ如ク職工組合ハ勞働時間ノ制限ヲ以テ標準勞賃ノ制定ト共ニ其ノ主要任務ト爲ス迄ニ至ツタノデアル。

併シ乍ラ歐洲ニ在リテモ尙ホ現今ニ至ルモ、少數ナル勞働者ノ團體中ニハ、勞働ニ關シテハ各人ハ其ノ欲スルガ儘ニ如何ナル場所ニ於テ如何ニ長ク働クトモ短ク働クトモ、ソハ全ク各人ノ自由デアツテ、公權力ヤ組合ノ勸ニ由リテ之ニ干渉ス可キモノデハナイト云フ、主張ヲ固執スルモ

ノガアル。其ノ理由トスル所ハ、先ニ勞賃制ニ就キテ述べタルト同ジク、契約ハ各人ノ自由ナレバ、各人ノ好ム所ニ從ツテ之ヲ爲サシメヨト云フニ外ナラス。即チ人格ノ自由、行爲ノ自由ヲ以テ動カス可ラザル信條ト爲スヨリ來ルモノタルニ外ナラヌノデアル。

此ノ見解ニ關スル議論ハ先ニ勞賃ニ就キテ一通リ之ヲ述べタル所ナレバ茲ニ又之ヲ繰返ス必要ハナイデアラウ。仍テ唯ダ事實ニ就キテ之ヲ見ルニ、彼ノ手工業者ヤ家内勞働者ノ如ク自己ノ家庭内ニ在リテ勞働ヲ爲ス者ニ在リテハ、其ノ勞働ハ賃錢ヲ多ク得ルノ必要上自ラ好ムデ長時間之ヲ爲スモノハ格別トシテ、自己ノ意思ニ反シテ他ヨリ強制的ニ其ノ勞働時間ヲ制限セラレ、自己ノ欲スル以上長ク勞働ニ從事セシメラルルコトハナイ。從テ此種ノ勞働者ニ關シテハ勞働時間ノ制限ニ關スル一般の準繩ヲ設クルノ必要ハ生ジ來ラヌノデアル。然ルニ彼ノ工場勞働ニ在リテハ、多數者ガ工場内ニ於テ共同的ニ勞働ヲ爲スモノナレバ、其ノ勞働ハ共通ノ制限ヲ被リ始業モ終業モ多數者一齊ニ之ヲ爲スノ必要上、其ノ勞働時間ハ皆一樣ニセラレ、各人ノ意思ノ如何ヲ問フコトナク十時間トカ十二時間トカニ一定セラルルコト洵ニ已ムヲ得ザル所デアル。從テ工場勞働ニ在リテハ其ノ一定サルル時間ノ長短ニ關シテハ一方ニ於テ企業者ノ利益ヲ顧慮シ他方ニ於テハ勞働者一般ノ利益ヲ顧慮シテ一樣ノ規制ヲ設クルノ必要ノ生ジ來ル次第デアル。唯ダ其ノ規制ガ何人ニ依リテ設ケラルルカニ由リテ、勞働者ノ利益ハ能ク擁護セラレモスレバ又大ニ傷害セラ

レモスルノデアル。

サレバ若シ此ノ勞働時間ノ限定ニ關シ法律的制限ノ存スルナク又集合契約ニ依ル集合的制限規約ノ缺如セル所ニ在リテハ、其ノ長短ノ決定ハ企業家タル雇主ニ依リテ行ハルルノ外ハナイ。而シテ雇主ハ自己ノ企業上ノ利益ヨリノミ之ヲ打算シテ勞働者ノ勞働時間ヲ長ク定ムルハ洵ニ當然ノ次第デアツテ、其ノ場合彼ハ唯ダ道德上ノ顧慮ヨリシテ餘リニ長時間勞働者ヲ使役スルノ殘酷ナルヲ思ヒ自ラ進ムデ勞働時間ヲ餘リ長カラシメザルコトアリトスレバ、其ハ甚ダ奇特ナコトデアツテ、大多數ノ場合彼ハ自己ノ企業利得ヲノミ主眼ニ置キ長時間ノ勞働ヲ課スルヲ例トシ、又現今ノ所謂自由競争ハ彼ヲシテ其ノ生産費ヲ最低限ニマデ切下グルノ必要ヲ感ゼシメ、勞働時間ハ出來得ル限り之ヲ長クスルヲ普通ト爲ス次第デアル。

茲ニ於テカ勞働者ハ自ラ進ムデ勞働時間短縮ヲ主張シ、之ニ關シテ一定限度即チ最長就業限度ヲ定ムルニ努メ、或ハ法律ノ力ニ依リ或ハ組合ノ手ヲ以テスル集合契約ノ力ニ依リテ其ノ目的ヲ達セントスルノデアル。職工組合ガ此ノ問題ヲ以テ其ノ主要任務ト爲シ、先ヅ自己ノ力ニヨリテ勞働時間ノ限定ヲ行ヒ次デ又法律ヲシテ之ニ一般的拘束力ヲ與ヘシムルニ盡力スルハ、洵ニ之レ勞働者自助ノ方法トシテ已ムヲ得ザル所デアル。

而シテ勞働時間ヲ短縮スルコトハ勞働者ニ取リテハ有利ノコトタルニ相違ナキモ、其ノ勞賃收

入ガ勞働時間ノ長短ニ繋ガリ定マルモノタル限リハ、之ニハ自ラ又一定ノ限度アルヲ知ラナケレバナラス。長キ時間ニ涉リテ勞働ヲ爲スコトガ常ニ必ズシモ其ノ時間ニ比例シテ勞賃收入ヲ多カラシムル所以デハナイケレドモ、勞賃ガ時間拂ナル場合ハ勿論ノコト、出來高拂ナル場合ニ於テモ、相當ニ長キ時間勞働スルハ、ヤハリ原則トシテハ勞賃收入ヲシテ多大ナラシムルモノデアル。サレバ勞働者ハ此點ニ於テハ一種ノ輕キぢれんまニ陷ツテ居ルモノデアツテ、勞賃ハ多ク得タシ勞働間時ハ短カカリタシ、兩者ノ能ク兩立シ能ハザル場合ニハ甚ダ痛シ痒シノ境遇ニ在ルモノデアル。ケレドモ勞働時間ヲ相當ニ短クシテ然カモ勞賃收入ヲ相當ニ多大ナラシムルコトハ決シテ兩立シ難キ事柄デハナイノデアルカラ、職工組合トシテハ一舉ニ此ノ兩目的ヲ達スルニ努力セナケレバナラスノデアル。

尙又勞働者ノ中ニ在リテモ一般ニ青年者ハ多少長キ時間勞働ヲ爲ストモ成可ク勞賃收入ノ多大ナランコトヲ希望シ、老年者ハ勞働時間ヲ長クスルハ決局勞賃收入ヲ少カラシムル所以タルコト經驗ノ教ユル所ナリトシテ、勞働時間ノ相當ニ短カカラシムルコトヲ欲スルモノデアル。蓋シ雇主トシテハ各勞働者ニ支拂フ可キ勞賃ノ總額ヲ常ニ眼中ニ置クモノナレバ、勞働時間ノ長クシテ勞働者ノ得ル勞賃額ガ多大トナレバ、必ズヤ、其ノ時間割ニ於ケル勞賃率ヲ低クシテ以テ全額ニ於ケル勞賃支拂高ヲ多カラザラシメントスルヲ例ト爲スガ故デアル。此事ハ又出來高拂ノ勞働ニ於テ

モ同様デアツテ、勞働者が長ク働キテ多クノ收入ヲ得ントスレバ、雇主ハ勞賃率ヲ下ゲテ勞賃支拂高ノ増加ヲ防ガントスルヲ例トスルカラデアル。

事情斯ノ如クナルガ故ニ職工組合トシテハ勞働ガ時間制ナル場合ニハ其ノ勞働時間ヲ八時間トカ十時間(近者一般ニ八時間制ノ主張セラルルハ人ノ好ク知ル所デアル)トカニ限定シ、然カモ其ノ限定以上ノ勞働ニ對シテハ時間外勞働トシテ餘分ノ勞賃支拂ヲ要求スルノ必要ヲ見ル次第デアル。而シテ此ノ餘分支拂ノ要求ヲ爲スニ就キテハ、企業者が餘分支拂ヲ爲スト云フ口實ノ下ニ時間割ニ於ケル勞賃率ヲ引下ゲテ以テ地代及ビ機械其他ニ對スル利子負擔ヲ輕減セント努ムルニ注意シ、彼ヲシテ之ヲ爲スヲ得セシメザルノ方法ヲ講ズル必要ヲ見ルノデアル。而シテ時間外勞働ニ對シテハ其ノ賃率ハ時間内ニ於ケル賃率ヨリモ之ヲ高クシ、二割五分増“time and a quarter”又ハ五割増“time and half”又ハ倍增“double time”ヲ請求スルヲ正當ナリトスルノデアル。

他方ニ在リテハ又職工組合ハ成可ク出來高拂ノ勞賃制ヲ制限シ、此ノ方法ノ行ハルルニ由リテ勞賃ニ關スル一般ノ率ガ低下セラルルヲ防ガントスルモノデアル。蓋シ出來高拂ニ於テハ勞働者ハ時間拂勞賃ニ於ケルガ如ク勞賃率ノ高低ヲ觀面ニ感ズルコト少ク、唯ダ受取ル勞賃ノ全額ニノミ注意スルヲ免レザル結果トシテ、勞賃率ノ低キ場合ニモ之ニ氣付カズ又氣付クモ多ク之ヲ意トセズ、率低ケレバ勤勉ニ又長時間働キテ以テ勞賃全額ヲ自己ノ希望スル額ニ達セシムルヲ例ト

スルモノデアルカラ、即チ率ノ低キヲ勤勉ト時間トニ由リテ補ハントスルヲ例トスルモノデアルカラ、出來高拂制ノ餘リニ廣ク行ハルルニ於テハ、一方ニ在リテハ勞賃率ノ標準ノ上進ヲ計リ難キニ加ヘテ、他方ニ在リテハ勞働者ガ過度勞働ニ陥リ易ク勞働時間ノ制限ノ行ハレ難キガ故デアル。

更ニハ又勞働者間ニハ、誠心誠意仕事ニ従事シ然カモ熱心勤勉ニ之ヲ行フ勞働者ニシテモ元來仕事ノ手ノ遅キ者ト、仕事ノ手ノ速キ者トアルヲ免レ難ク、ソレハ洵ニ各人ノ生レ付キナレバ致方ノナキコトデアル。然ルニ出來高拂ノ勞賃ナルニ於テハ仕事ノ速キ人ハ仕事ノ遅キ人ヨリモ一定時間内ニ遙カニ多額ノ勞賃收入ヲ得ルヤ當然ノコトデアル。ケレドモ同ジク誠實ニ又勤勉ニ仕事ニ當ル限リニハ仕事ノ遅キ者モ速キ者モ同様ナル報酬ヲ受ク可キ筈デアツテ、前者ガ後者ヨリモ少キ報酬ヲ得テ甘ンゼナケレバナラスト云フハ不公平ナリト云フ考モ行ハルルノデアツテ、此事ハ又出來高拂制ノ排斥サルル重要理由ナリトセラルル次第デアル。²⁹⁾

兎モ角此等ノ理由ニヨリテ成可ク出來高拂制ヲ制限シテ時間拂制ヲ廣ク行ハレシメ、然カモ其ノ時間ヲ限定シテ同時ニ時間割勞賃率ヲ高カラシメ、時間外勞働ニ對シテハ更ニ高率ナル餘分支給ヲ要求セントスルハ職工組合ノ目的トシ又任務トスル所デアル。サレバ勞働時間ヲ制限スルト云フコトト、勞賃制ヲ整ヘ其ノ標準率ヲ定ムルト云フコトトハ、互ニ相關聯シタル問題デアツテ、

29) S. a. B. Webb. Industrial Democracy, pp. 324-347; c. m. Lloyd, Trade Unionism, pp. 104-108

兩者ハ決シテ別個ノ問題デハナイノデアル。職工組合ガ此ノ兩者ヲ以テ其ノ重要任務ト爲スコト洵ニ其ノ理由アル所ト謂ハナケレバナラヌ。而シテ兩者ハ互ニ關聯シタル問題デハアルケレドモ、假リニ之ヲ別々ニ見テ、任務トシテノ其ノ難易ヨリ言ヘバ、勞働ニ對シテ一般のナル時間ノ制限ヲ設クルト云フコトハ、勞賃ニ對シテ一般のナル標準率ヲ定ムルト云フコトヨリモ、遙カニ容易ナリト謂ヒ得可キデアル。即チ前者ニ關シテハ後者ニ於ケルガ如ク地方的ナル事情ノ相違ノ斟酌セラレザル可ラザルモノナク、又勞働時間ノ長短ノ間ニ存スル懸隔ハ勞賃ノ多少ノ間ニ有スル懸隔ノ如ク大ナルモノニアラズ、所詮前者ニ關スル統一ハ後者ニ於ケルヨリモ容易デアル。ケレドモ元來問題ガ互ニ關聯シタルモノタル限り、兩者ハ實ニ一括シテ一ツノ任務トシテ職工組合ノ努力ノ的トナラザルヲ得ナイノデアル。而シテ從來此ノ任務ニ關シテ職工組合ノ成就シ得タル所ハ多大デアル。其功ヤ沒ス可ラズト雖トモ、尙ホ職工組合ノ前途ハ其ノ任務ノ遂行ニ於テモ遼遠ナリト謂ハナケレバナラヌ。(完)

尙ホ職工組合ニ關シテハ其ノ任務遂行ノ方法特ニ其ノ政治的行動ヤ、一般ニ職工組合ナルモノノ社會的ニ見タル利弊ヤ、其ノ將來ノ運命特ニ社會主義及ビさんぢかりすむトノ關係等ニ就キテ、大イニ論ズ可キモノアレドモ、其等ハ後日ニ譲ルコトトシテ、暫ク茲ニ筆ヲ止メテ置ク。